



北海道の宗谷岬付近へ釣行したときの画面。10m間隔で詳細に表示される等深線データは、特に初めて釣りに出かけるようなエリアでは、いろいろな意味で強い味方になるとい



釣果を前に大満足の小野さん。「航海機器は、実際に使ってみないと分からないことも多く、なかなか比較できる機会もない。ボートショーなどで、いろいろな機器に触れることをおすすめします」

## 広がる ニューベック ファミリー

## ニューベックの導入で、 釣りの効率が 大きくアップ！ 小野信昭さん & 古野電気「GP-1870F」

(一財)日本水路協会が発行する航海用電子参考図「ニューベック」は、  
ウィンドウズパソコン上での運用に加えて、  
国内の航海機器メーカーの多くが、自社製品にマップデータとして導入。  
より多くのユーザーが気軽に使える環境ができています。  
ここでは、ますます広がる「ニューベックファミリー」に注目し、  
あれこれ紹介していく。  
今月は、ニューベック搭載のGPSプロッター魚探を愛用する、  
カートッパーの小野信昭さんにお話を伺った。



**FURUNO**

問 古野電気 本社 / 国内営業部  
TEL: 0798-63-1085 http://furuno.com

[GP-1870F] ●対画面：7型ワイドカラー TFT液晶 ●解像度：800×480ドット(WVGA) ●輝度：900カンデラ ●GPSアンテナ：内蔵 ●AIS表示：クラスAとBに対応(AIS機器を接続の場合) ●表示モード：プロッター、魚探、潮汐データ、GPS受信状態、インストゥルメント\*、エンジンモニター\*、風向風速\*、タンクゲージ\*(外部センサーとの接続が必要) ●記憶点数：航跡30,000点、目的地30,000点、ルート1,000ルート(ルート内目的地50点) ●魚探周波数：50 / 200kHz ●送信出力：600Wまたは1kW ●表示範囲：レンジ5 ~ 1,200m、シフト0 ~ 1,200m ●防水性能：IPX6 ●電源：DC12-24V ●本体価格(送受波器別)：293,760円(税込)

カートップポート(とまき丸)(パーフェクター13)を愛車の屋根に積み、全国津々浦々での釣りを楽しんでいる小野信昭さん。姉妹誌『ボート倶楽部』で記事を連載するほか、釣具メーカーのフィールドテスターを務めるなど、カートッパーの世界では第一人者として知られている。

そんな小野さんは、2011年の秋ごろから、ニューベックのマップデータを搭載したGPSプロッター魚探を愛用するようになった。当時を振り返って、その感動を興奮気味に話す。

「6~7年同じモデルを使っていたので、最新機種が出るたびに、うらやましく眺めていました。そんなときに出会ったのが、古野電気の「GP-1870F」というモデルです。ニューベックの詳細な等深線データには、驚きと感動を覚えました」

元々使っていた機種でも等深線は表示されていたが、その間隔は50mとか、100mごとだったという。それがニューベックのマップデータでは、10m間隔(エリアによる)で表示され、海底の様子が容易に分かるようになった。

「釣り場に着き、それから細かくポイントを探し始めるというのは、非常に時間がかかる。それが、初めて出かけるエリアでも、出航前にエリアの海底地形を把握できるので、好ポイントの目星をつけやすく、直ちにポイントに向かって釣りをスタートできます。また、私のように小さなボート(3.8m)の場合、天候や海象に左右されることも多く、安全に釣りを楽しめるコンディションも限られる。貴重な時間をより有効に活用できるようになったという意味で、ニューベックは大きな武器ですね」

古野電気の「GP-1870F」は、ニューベックの全国版のマップデータを標準装備している。この点についても、小野さんの場合には大きな魅力となった。

「マリナに保管している艇の場合、釣りをするエリアは決まてきますが、カートップポートの場合は、それこそ全国各地の海がゲレンデになります。知らない土地、初めて訪れる海でも、詳細な等深線データがあるので、事前の計画が断然立てやすくなりました」

プレジャーボートをはじめとする小型船舶に特化して作られたニューベックだけに、データとしての完成度は非常に高い。いろいろな遊び方、さまざまなユーザーにとって、幅広い利用価値を持つツールといえるだろう。

## 初めての海が慣れ親しんだ海域に! 辛坊治郎さんの場合



2013年6月の太平洋横断挑戦は、残念ながら失敗に終わったが、その後、愛艇をホルベルグラッシー39に乗り換え、セーリングを続けている辛坊治郎さん。現在の艇には、ニューベック搭載のGPSプロッター魚探、古野電気のGP-1870Fを導入した。

「信頼性と堅牢さ、そしてコストパフォーマンスが最高で、他の選択肢はなかったです。昔、使っていた機器は、内蔵されていたマップデータが古

く、ノリ網に突っ込みそうになって冷や汗をかいたことが何度かありますが、現在は、この手のトラブルとは一切無縁になりました」

定置網など漁具の位置情報を表示することは、ニューベックの大きな特徴の一つだ。

「大阪湾の日帰りクルーズで日常的に使っているほか、大阪と大分との間を1往復半しました。瀬戸内海経由が2回、四国沖太平洋回りが1

回です。細かく操船しないと不意のトラブルに巻き込まれそうな瀬戸内海の難所を、ニューベックのおかげで楽々乗り切れました。初めての海が、慣れ親しんだ海域に変わります。万が一、機器が使えなくなったときのことを考えて、ハンディーのGPSと港湾図、もちろん海図は持っています。でも、ニューベック導入後は、趣味で海図を眺めることはあっても、実際に航海に使う頻度は下がりました。もっ

とも、特に夜間航海時などは、機器に頼りきらず、とにかくワッチが一番大切だと思います」



航海用電子参考図「new pec」

JHA(一財)日本水路協会

海図ネットショップ



new pec  
ファミリー

E-CHART

KODEN

FUSO ELE

FURUNO

HONDEX



※本製品に関する問い合わせは、古野電気 本社 / 国内営業部まで